

子どもとの接し方

子どもは小さい大人ではない

子どもの心に寄り添う

1. 子どもが帰ってきたら、明るい笑顔で、元気よく挨拶しよう。
2. 子どもとのスキンシップを大切にしよう。
3. 何をするにも、まずは指導員が楽しむ気持ちを持つことが大切。
4. 遊ぶときには、子どもよりも子どもらしく。
5. 指導員の笑顔そのものが、その場の雰囲気明るくする。
6. その場でパッと子どもを楽しませることが出来る技を持とう。
7. 目の位置を下げて同じ高さで話をしよう。
8. 特に印象の薄い子に意識して声をかけよう。
9. 擬態語を多用すると、子どもとの対話が楽しく、わかりやすく伝わる。
10. 言葉でなくて、見せて教えると早く伝わる。
11. 運動遊びの指導は、緩急をつけて行うことが大切。
(遊具等の使用ルールの把握と確認。)
12. だらだらと子どもを待たせる時間は極力無くそう。
13. 子どもを叱るときは、何が悪かったのかを明確にしよう。
14. 叱った後は、必ず気を取り直せるようにフォローしよう。
15. 限度を超えた悪ふざけは、その場ではっきりと注意しよう。
16. 少しの伸びを見逃さないでほめよう。(自分らしさ、自己コントロール等)
17. あそぶ前には必ず危険な場所が無いかチェックをしておこう。
18. ケガをさせたときは、早急に施設長と保護者への連絡を忘れずに。
とくに保護者への謝罪は忘れずに。対応者は最後まで責任をもって。
19. 子どもたちとの約束事は、必ず守ろう。
20. 指導員もいつも着替えを用意しておこう。
21. 毎日少しずつ、気が付いたことを話せる時間をつくろう。
(子どもの気づきを大切に)